

学校経営構想

生徒の実態
保護者の願い
地域の願い

学校教育目標
自分の未来とふるさとの未来を切り拓く生徒の育成
校 訓
立志 友愛 剛健

県の指針
北の教育指導計画
大館市の教育

目指す生徒の姿

共感的協働力を備えた生徒

目指す学校の姿

ふるさとと共にある学校

愛校心・郷土愛が支える 東中三大自慢

あいさつ・歌声・東中太鼓

礼儀正しく美しく
笑顔でおもてなし

心一つに
響き合うハーモニー

伝統を引き継ぐ
鳳凰太鼓と闘魂太鼓

〈経営の重点〉

- 1 学習指導 「思考力・判断力・表現力の育成」
 - (1) 「鳳凰タイム」を軸とした共感的・協働的な学びの実現
 - (2) 授業の基礎・基本（東中スタンダード）の徹底
 - (3) 諸調査や学習アンケートを基にした授業改善
 - (4) 道徳教育の充実→道徳科の指導方法の研究
 - (5) 家庭学習の充実
- 2 生徒指導 「礼儀正しく美しく」
 - (1) 校内外における礼儀正しく美しいあいさつ
 - (2) 心配りが伝わる言葉遣い
 - (3) 身の回りの環境を美しく整える（清掃、整とん）
- 3 特別活動 「愛校心・郷土愛の醸成」
 - (1) 共感的協働力に支えられた学級集団、学年集団の育成
 - (2) 東中三大自慢を軸とした生徒主体の活動の充実
 - (3) ふるさとキャリア教育の充実
 - (4) ボランティア活動の推進
- 4 安全・安心な学校づくり
 - (1) 登下校時の交通安全指導の徹底
 - (2) いじめ・問題行動等の早期発見、早期解決
 - (3) 教育相談、生徒支援の充実→新たな不登校を作らない

共感的協働力の育成

「子どもの最高の姿を見せる」

学校教育の向こうにあるゴール

高い志をもってふるさとを支えることのできる人材の育成

自己評価 Aと外部 評価の評 価区分	きわめて良好	自己評価 Bの評価 基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対して100%達成
	良好		4	実現状況は良好で意識も高い／数値目標に対して80～99%以上達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対して60～79%以上達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対して40～59%
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対して39%以下の達成

ア
生徒の
状況

I 自主的・自律的な生活

生徒の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
仲間を大切にしながら、礼儀正しいあいさつと規律ある生活を送ろうとしている。	前期	おおむね良好	良好といってもよいが、挨拶に関して、「そう思う」という割合が若干少ないのが残念である。2年生が、全ての項目で「そう思う」という割合が他学年に比べて低いので、引き上げられるよう工夫してほしい。
	後期		
自己評価の概要と学校の改善策	【前期（→年度）】 全学年とも約95%以上の生徒が「楽しく学校生活を送っている」と回答している。元気なあいさつや清掃への取組は昨年度より数値が下回っている。教師アンケートでも、同様の結果であり東中の自慢と言えるためにはもう少し意識を高くもたせたい。相談活動の面については、悩み事を相談できると回答した生徒が多く、良い傾向である。毎月月末に行っている「振り返りカード」を活用し、速やかに相談活動につなげることはもちろんであるが、日常の観察を丁寧に行い、気になる生徒については情報共有し、即時対応につなげていきたい。		
	【後期（→次年度）】		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
1 基本的な生活習慣	(1) あいさつや清掃など共通理解に基づいた指導	年間を通したあいさつ運動 清掃指導	3	
	(2) 自律的な学校生活	生活のきまりの厳守 時間の意識化 週番活動		
2 相談活動の充実	(3) 生徒指導の三機能を生かした指導	教育相談 人間関係づくりの推進	3	
	(4) 積極的な生徒理解と連携	毎月の振り返りアンケート アセス 保健室や家庭との連携 スクールカウンセラーや外部機関との連携		

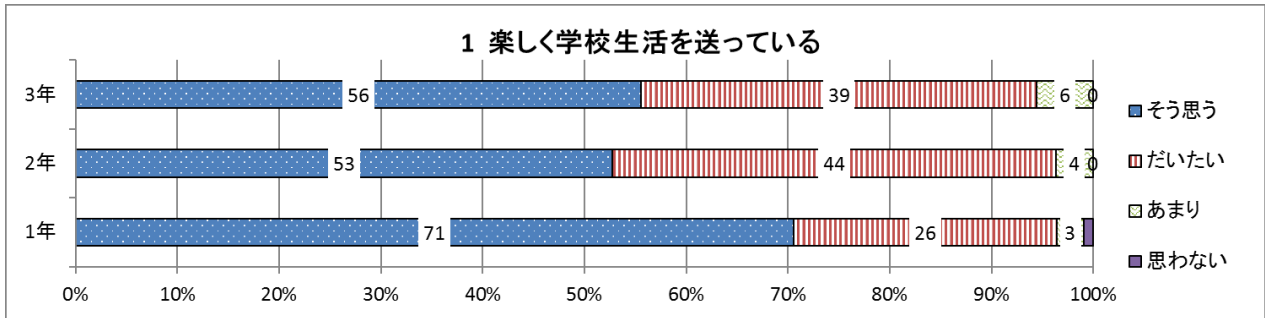
【評価指標 1】 基本的な生活習慣

生徒

R2
3.55

↓

R3
3.55

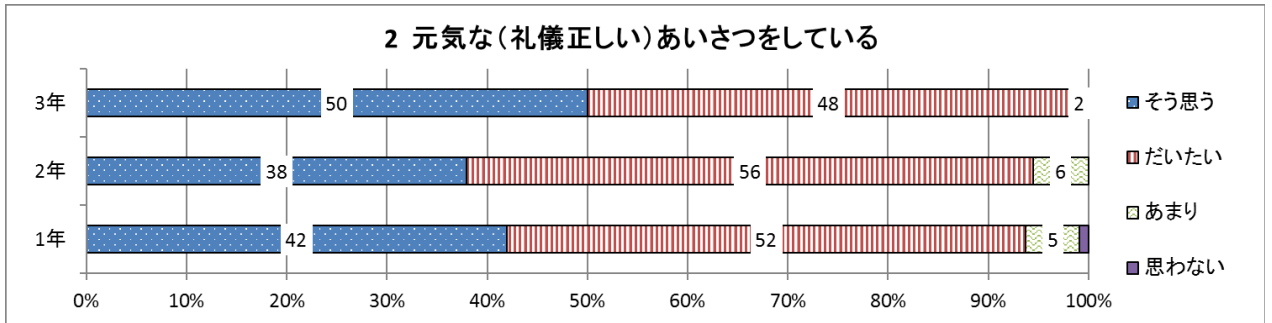


生徒

3.45

↓

3.38

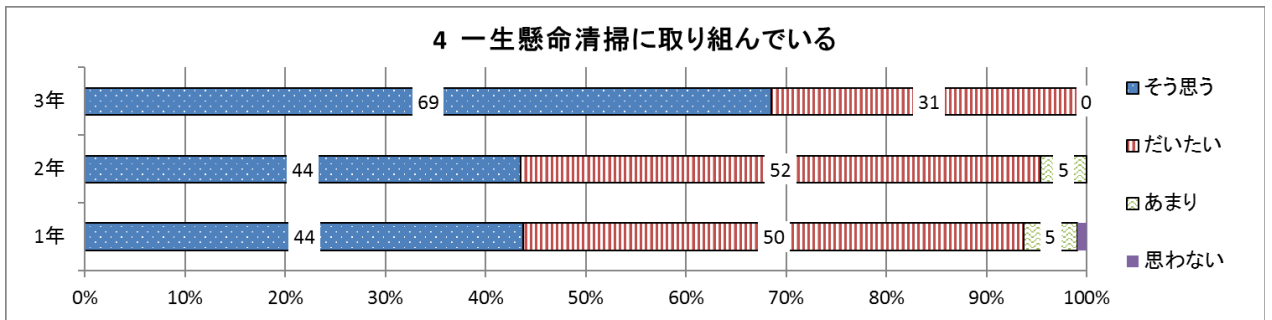


生徒

3.57

↓

3.48

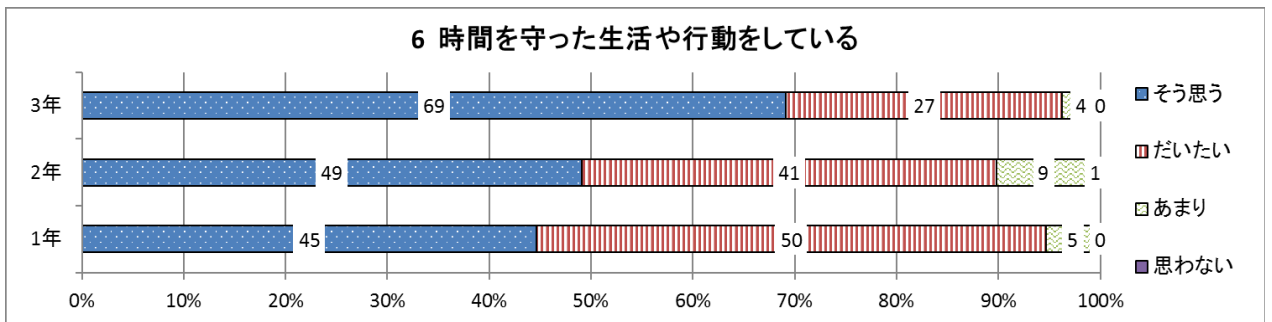


生徒

3.38

↓

3.47



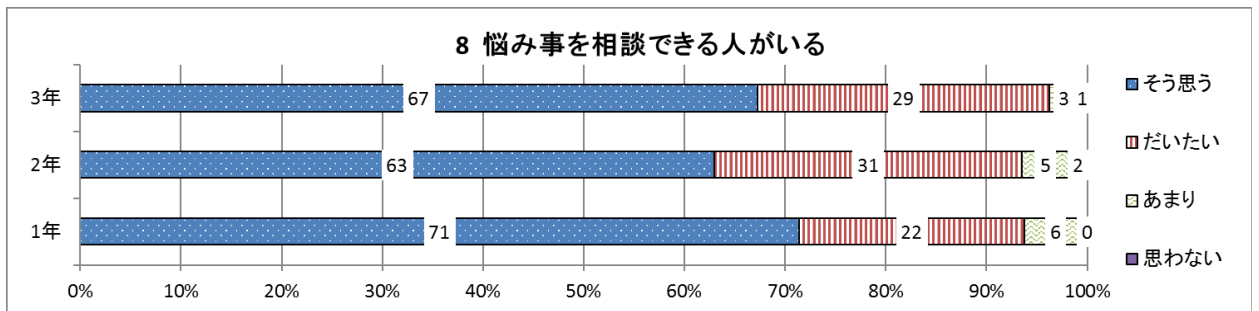
【評価指標 2】 相談活動の充実

生徒

3.57

↓

3.61

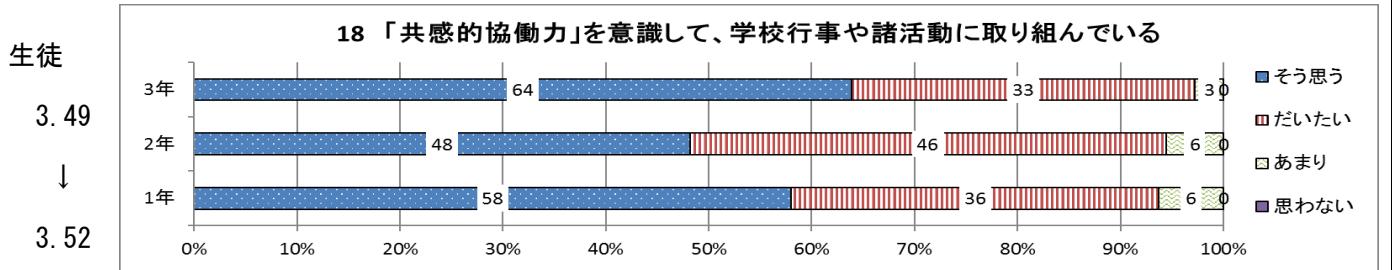
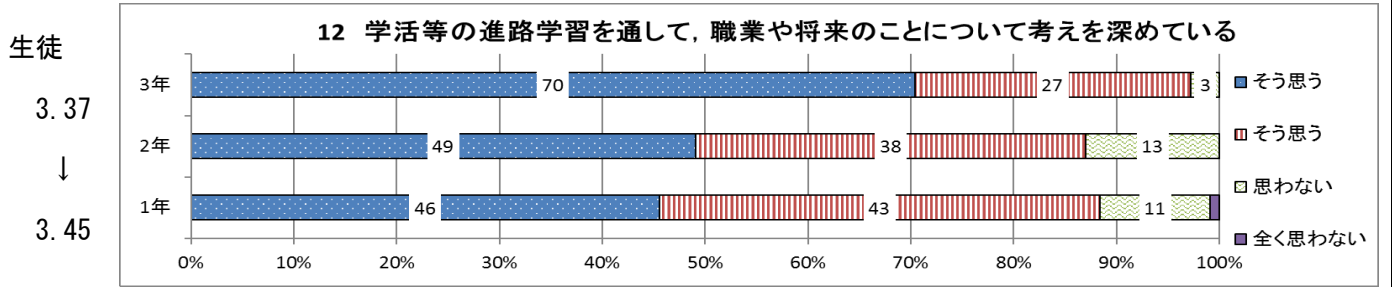
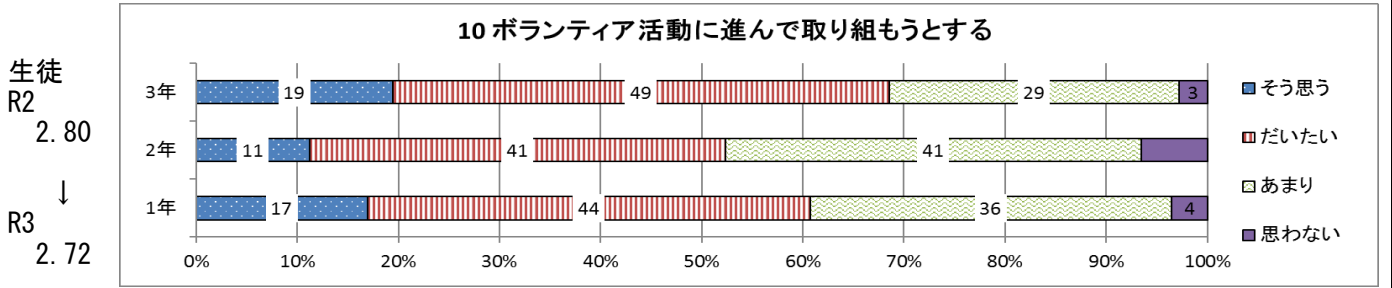


Ⅱ 思いやりとたくましい心

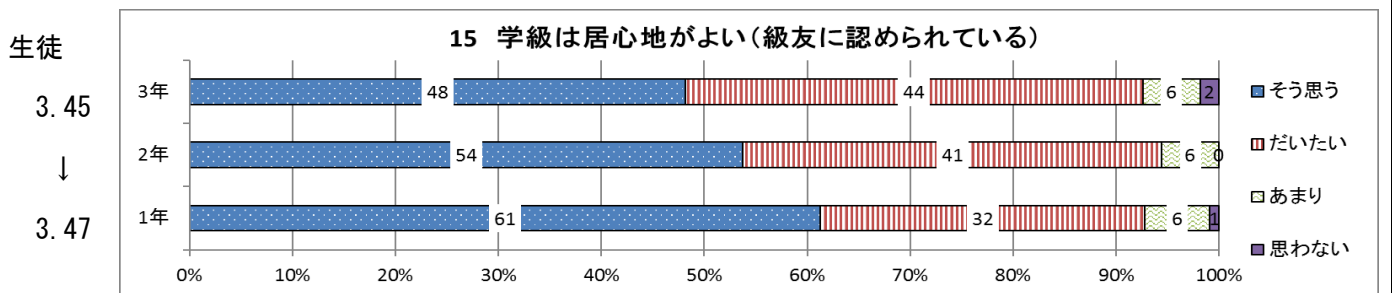
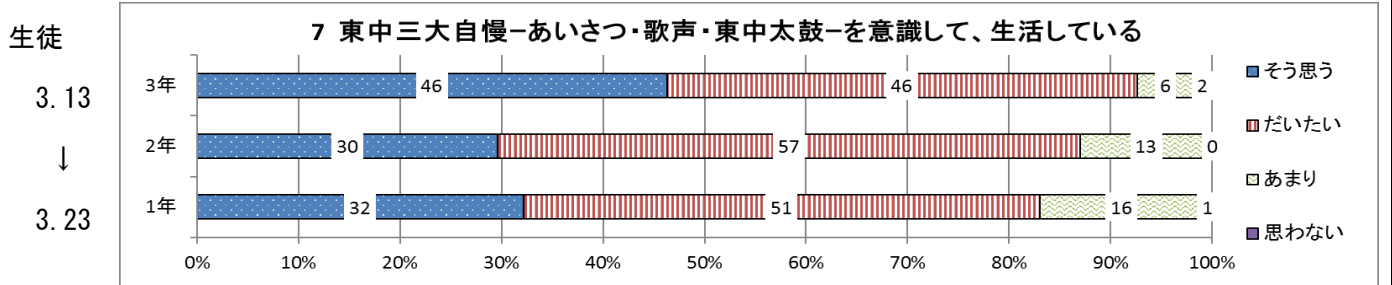
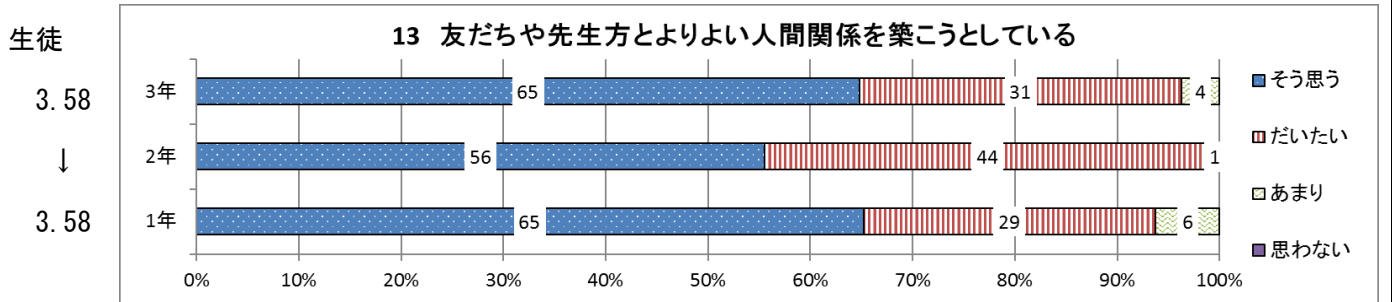
生徒の状況		自己評価 A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
互いに認め合い、切磋琢磨しながら、一人一人がよさを発揮し、豊かな学校生活を送ろうとしている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	三大自慢である「東中太鼓」はコロナでなければ、もっと披露できたと思う。ボランティア活動は、コロナの影響が大きく、やりたくできもできない状況であるが、その中でも有意義な活動が行われている。
	後期			
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【前期（→年度）】</p> <p>「豊かな体験活動」については、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、校内外での活動が延期や中止、規模縮小となるものが多かったため、「ボランティア」に関する数値が昨年度よりも低下したと捉えている。昨年度立ち上げた「お土産プロジェクト」は、今年度も継続して活動が行われており、プロジェクトメンバーだけではなく、全校生徒の参加の下、愛校心や郷土愛の醸成、将来ふるさとを支えようとする自立の気概をもった生徒の育成につながる活動になっている。</p> <p>「共感的協働力」や「学級内での人間関係」等、「集団活動の向上」についてのアンケート項目は、いずれも昨年度より高い数値を示している。これは、規模縮小ながらも学校行事が行えたことが、生徒にとって集団での所属感や共感的協働力を高めることにつながったと考えられる。また、東中三大自慢も実施2年目となり、生徒に浸透してきていることが数値の向上からうかがえる。</p> <p>2学期には、学校祭や地域での東中ボランティアなどの体験活動を実施予定である。これらの機会を生徒が自分の進路や将来について考えを深める大事な機会と捉え、生徒の意識を更に高めていきたい。</p>			
	<p>【年度（→次年度）】</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価 B	
			前期	後期
3 豊かな体験活動	(5) 愛校心、郷土愛の醸成 ふるさとに根ざし、自立の気概を育てる指導	東中ボランティア、きりたんぼ祭りボランティア 子どもワークへの参加 おみやげプロジェクト 職場見学、職業講話：1年生 職場体験学習、大館PR活動：2・3年生	3	
4 集団生活の向上	(6) よりよい生活や人間関係の構築	学校教育活動全体を通じた道徳教育 学級プログラム・係活動での一人一役 鳳凰集会などの話合い	3	
	(7) 共感的協働力を高める集団活動	東中三大自慢－あいさつ・歌声・東中太鼓－の推進 学校行事や生徒会行事の充実		

【評価指標3】豊かな体験活動



【評価指標4】集団生活の向上



Ⅲ 基礎学力

生徒の状況		自己評価 A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
基本的な学習習慣を身に付けている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	この項目も、2年生が低い。学び方にはどのようなスタイルがあるのが、方法論をアドバイスしてほしい。新しい知識を学んだら、自慢する機会を設けるなど、おもしろい知識に触れることで、学ぶことの楽しさを実感させてほしい。
	後期			
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【前期（→年度）】</p> <p>今年度は、「東中の学び方の約束」を提示し、授業で取り組むべき約束事を、4月の学習集会で教師と生徒で共通理解し、実践してきた。「東中の学び方の約束を意識しているか」の設問に対して、肯定的に答えている割合が、1年生95%、2年生87%、3年生96%と、おおむね良好であった。しかし、取組状況が教師によってまだまだ差があるので、教師側の意識を更に高め、取組を強化していきたい。</p> <p>教師アンケート「東中スタンダードを意識している」の設問には、肯定的な回答が94%であった。夏季休業中に行った校内研修会で振り返りと反省を行ったので、授業の基礎・基本と深い学びを創る教師のコーディネート編を再確認し、2学期の授業改善に努めたい。</p> <p>「効果的な家庭学習を行っている」（生徒）「家庭学習の習慣が身についている」（保護者）については、生徒・保護者共に70%以上が肯定的に回答している。今後も、学級担任や教科担任が教育相談などを活用し、一人一人に合った学習方法を提示していきたい。また、テスト前などの学習に対して意欲が高まる機会を逃さず、ノートを見合う会などを設定することで、自身の家庭学習を振り返り、より質の高い家庭学習になるように支援していきたい。</p>			
	<p>【年度（→次年度）】</p>			

評価指標	実践課題	主な取り組み	自己評価 B	
			前期	後期
5 基本的な学習習慣	(8) 望ましい学習習慣の確立	東中スタンダードの定着と深化	3	
6 充実した家庭学習	(9) 効果的な家庭学習の支援	目的意識をもたせた家庭学習への支援	3	

【評価指標5】基本的な学習習慣

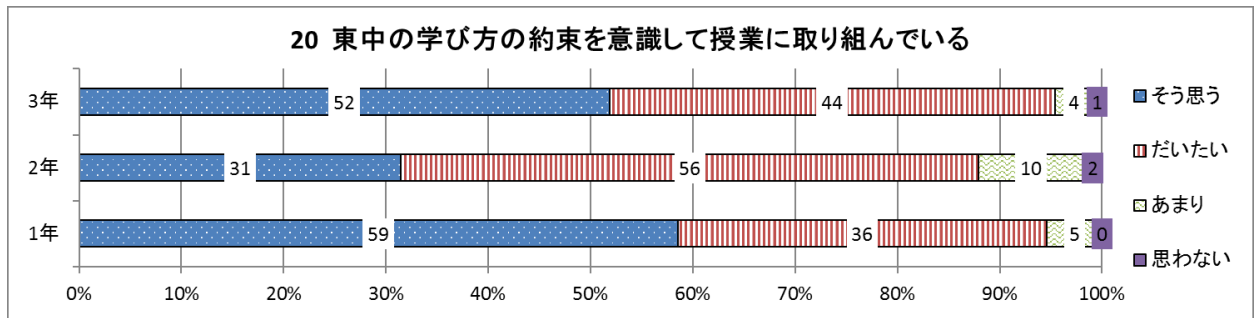
生徒
R2

3.44

↓

R3

3.39

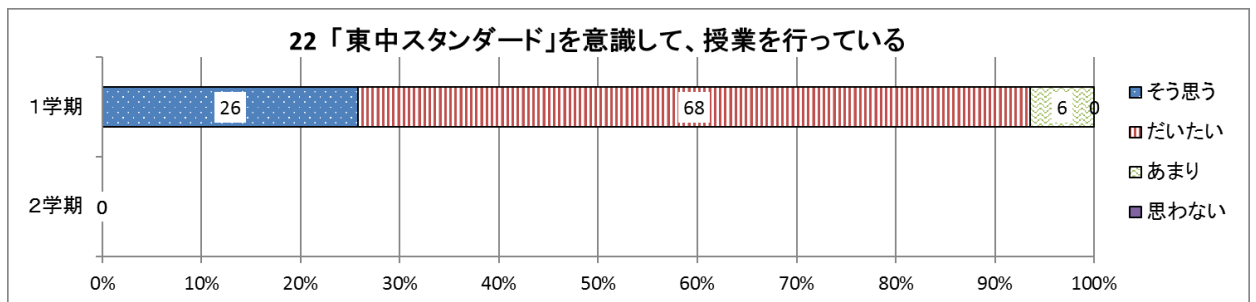


教師

3.15

↓

3.19



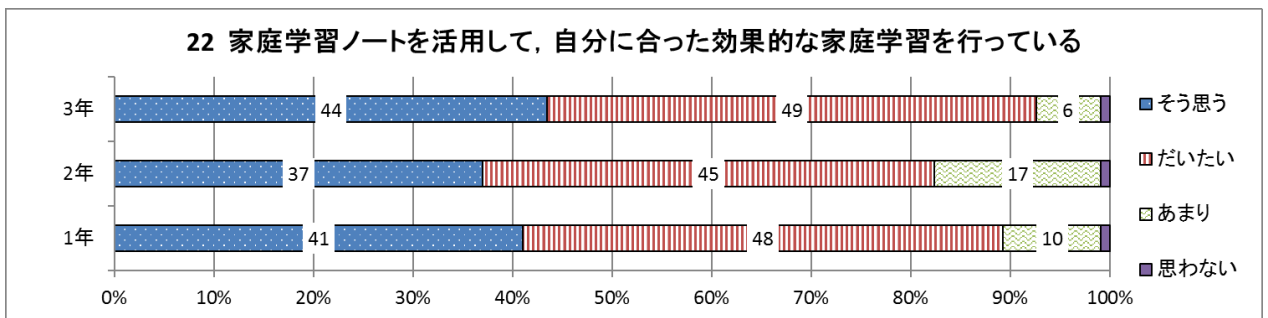
【評価指標6】充実した家庭学習

生徒

3.26

↓

3.28

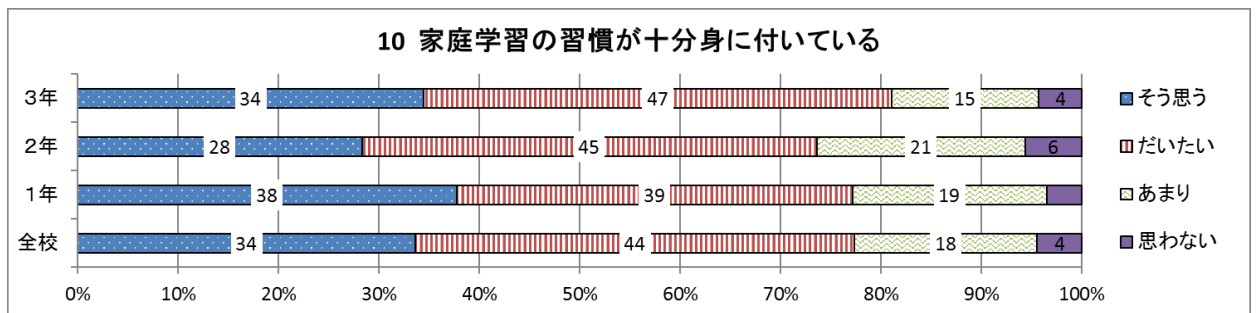


保護者

3.04

↓

3.07



IV 教師の研修

学校の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
学校の研究課題の解決に取り組むとともに、自らの指導力を高めるための研修に努め、指導力の向上が図られている。	前期	良好	良好	先生方も、生徒も大変元気があった。先生方のコーディネートも年々ようになっており、3分程度の参観ではあったが、姿勢や視線がしっかりしており教室の雰囲気がよく、授業の準備や進め方がよかった。
	後期			

自己評価の概要と学校の改善策	<p>【前期（→年度）】</p> <p>「授業が分かる」の数値がR2よりアップしているが、2、3年生は「そう思う」が40%を切っている。学年によって授業への意識・取組に差が見られるが、すべての生徒にとって「分かる授業」を目指すべく、授業改善に力を入れていきたい。</p> <p>また、「先生方は熱心に授業をしている」という項目では、3.78（前年度末比-0.02）の数値だった。ほぼ100%の生徒が肯定的に評価しており、東中実践の軸である「鳳凰タイム」の実践に力を入れながら、今後も生徒にとってやりがいのある授業を全職員一丸となって目指していきたい。</p> <p>5月の校内研修会では、昨年度行った研究授業の映像を見て、本校の共通実践事項の確認を行い、今年1年間の研究の見通しをもった。また、夏休みには新学習指導要領が求める学習評価の実際や、各教科の「見方・考え方」「鳳凰タイムの深化」について研修を行った。コロナ禍の中で、様々な制限が求められる現在の、生徒の未来のために歩みを止めることなく、生徒と共に前へ進んでいきたい。</p>
	<p>【年度（→次年度）】</p>

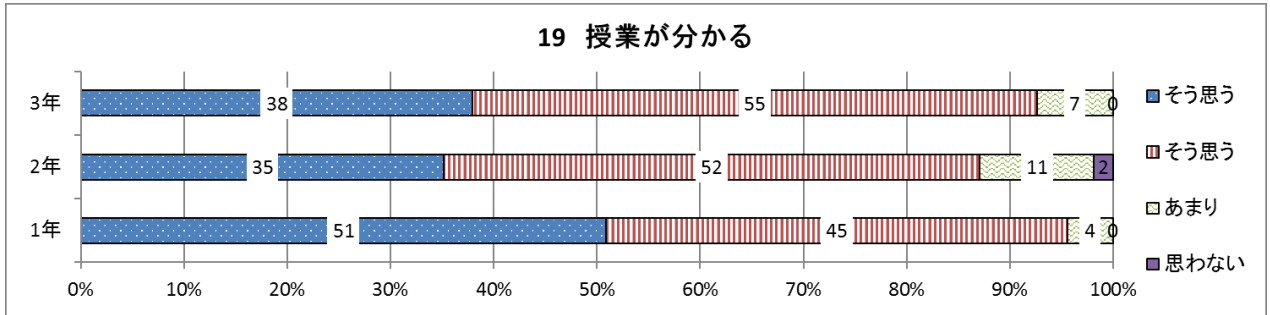
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
7 授業改善の推進	(10) 単元構想力の向上 魅力ある導入の工夫	各教科の見方・考え方を生かした授業構想 諸検査データの分析と活用	3	
	(11) 共感的・協働的な学びの追究	教師のコーディネート力の向上 鳳凰タイムの深化 振り返りの充実		
8 研修の実施及び活用	(12) 研究会を通しての指導力の向上	研修成果の情報提供 効果的な研究会の実施	4	
	(13) 各教科での取組の共有	教科部会の充実 教科部会と学年部会の連携		

【評価指数7】授業改善の推進

生徒

R2
3.30

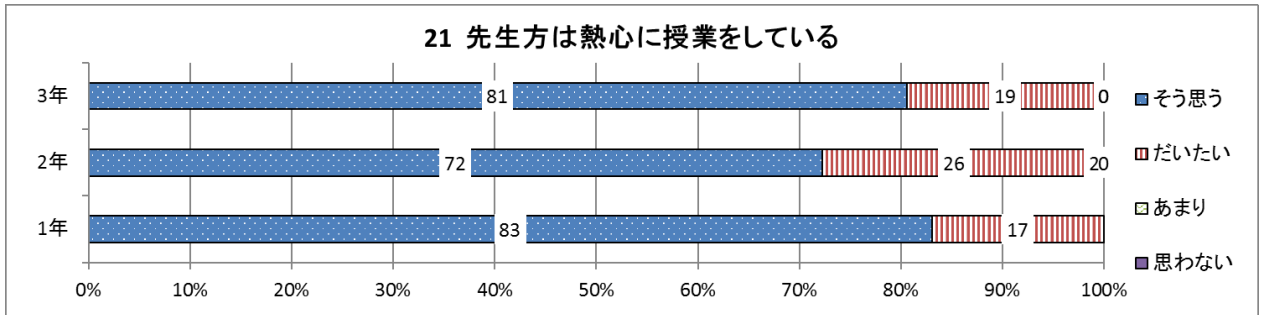
↓
R3
3.33



生徒

3.80

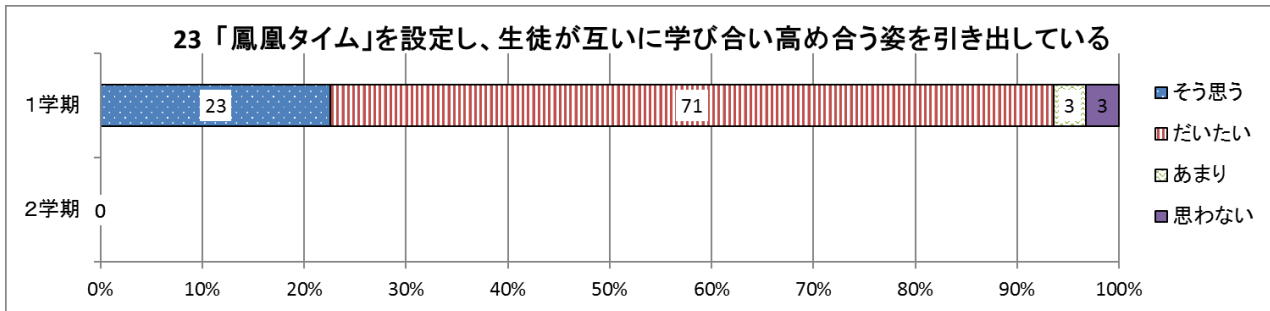
↓
3.78



教師

3.15

↓
3.13

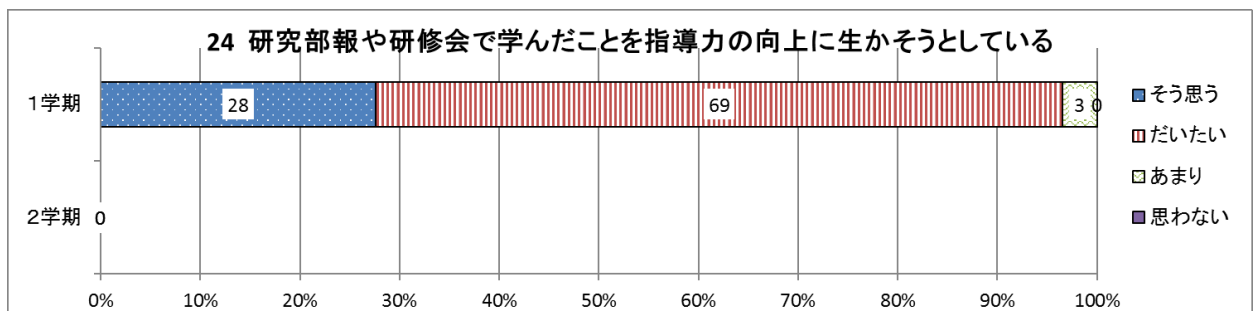


【評価指数8】研修の実施及び活用

教師

3.23

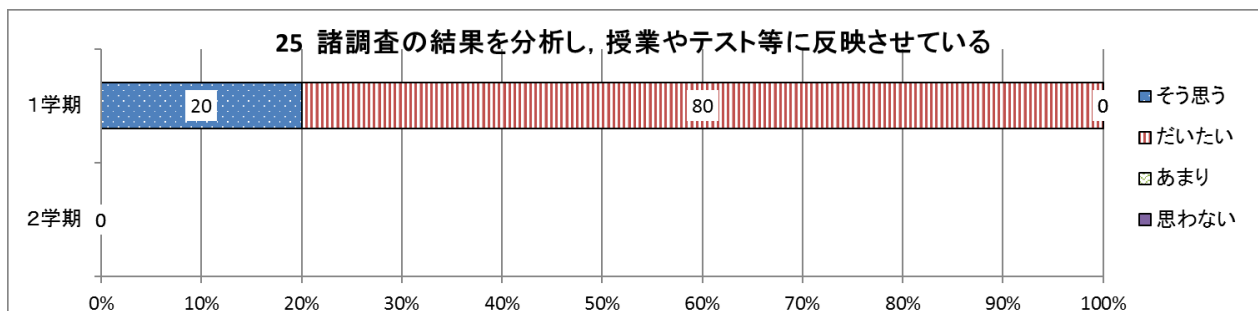
↓
3.24



教師

3.15

↓
3.20

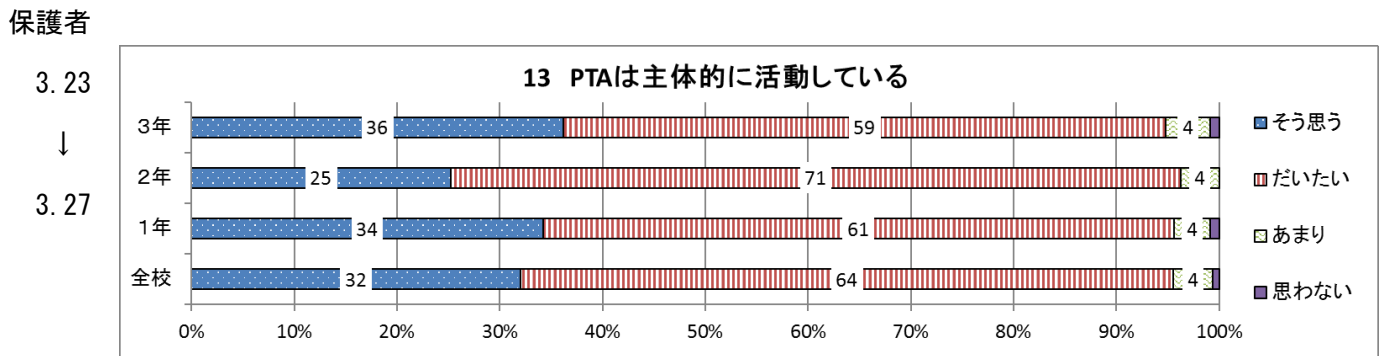
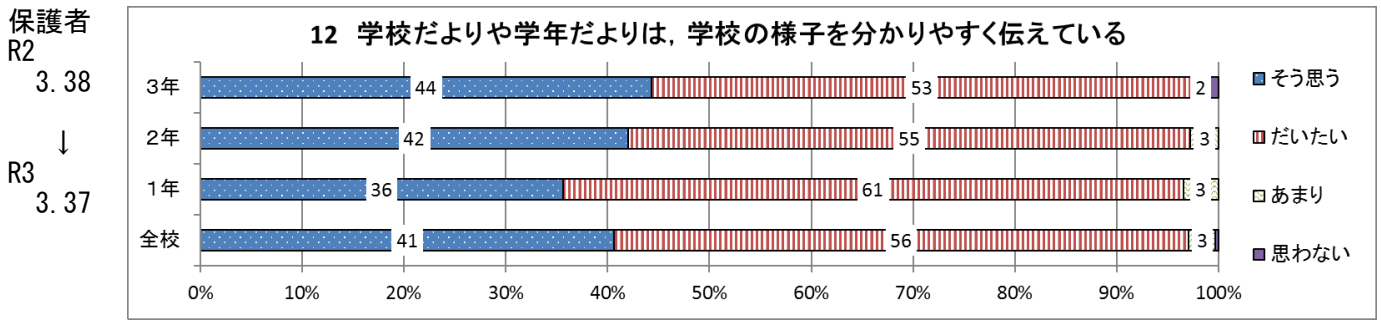


V 保護者・地域との連携

学校の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
学校の取組が分かりやすく保護者や地域に伝えられ、地域の教育力が効果的に活用されている。	前期	良好	良好	学校の地域や保護者との良好な関係がうかがえる。子どもたちの声があると、地域も元気が出る。地域が急速に変化しており、地域との関わりは意思疎通が難しいが、今後も、無理せず連携してほしい。
	後期			
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【前期（→年度）】</p> <p>「学校だよりや学年だよりは、学校の様子を分かりやすく伝えている」については、肯定的な回答が全校で97%であり、極めて良好である。学校評価保護者アンケートの自由記述にも、「学級・学年だより、メール等で学校の様子がよく分かりありがたい。」との声が多かった。</p> <p>「PTAは主体的に活動している」については、肯定的な回答が全校で96%で、コロナ禍で活動が制限されているにもかかわらず、本校のPTA活動が充実していることがうかがえる。</p> <p>「学校は地域との連携に取り組んでいる」については、肯定的な回答が全校で97%であり、極めて良好である。今後も、地域貢献やボランティアの意義を理解させながら、東中生の最高の笑顔を地域に届けられるように様々な活動に取り組ませたい。</p> <p>また、教師の85%が、地域の人材を有効に活用していると答えており、職場体験学習等において地域の方々の協力が大きいことがうかがえる。今後も、生徒に身に付けさせたい資質・能力や1時間1時間のねらいを達成するための効果的な活用方法を探っていきたい。</p>			
	<p>【年度（→次年度）】</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
9 保護者との連携	(14) 教育方針や教育活動についての効果的な発信	教育活動等が見える各種だよりの充実 ホームページ、連絡メールの活用	4	
	(15) 行事や諸活動の工夫	保護者の活動を通じた協力体制づくり 保護者の主体的な活動のための支援		
10 地域の教育力の活用	(26) 地域学校協働本部事業等を生かした教育活動	地域人材の効果的な活用 学校と地域住民等との双方向の連携 地域コーディネーターの活用	3	

【評価指標9】保護者との連携



【評価指標10】地域の教育力の活用

